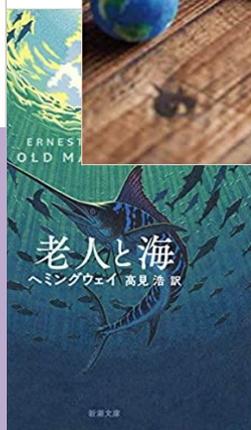
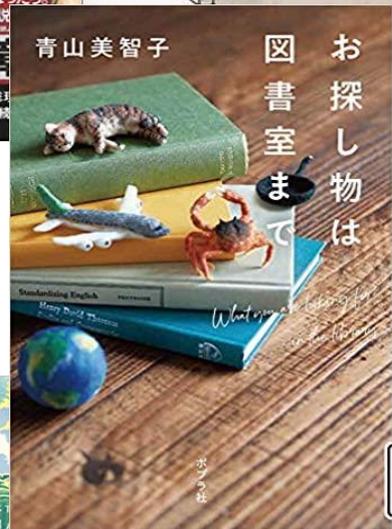


令和6年度 読書寸感文集

浜松工業高等学校 図書委員会



学年		科	寸感文
クラス	1年	C	この本に登場する人たちは必ずしも正しくなく、自分の「弱さ」をさらけ出しています。ですが、自身のそうした部分を人に話せるということはかなりの「強さ」だと思いました。僕は本書の中の「何もやらないことが得になっている」という言葉に同意します。自分自身も周りからの視線や批判を恐れて挑戦せず無難な方を選んでしまうことがあるからです。自分が失敗した時、その失敗を多面的に見られるようになりたいと思いました。
氏名	*****		
書名	生きのびるための「失敗」入門		
作者名	雨宮処凛		

学年		科	寸感文
クラス	1年	C	「幸せって何だろう？」人によって幸せの感じ方は違うと思います。この本はその幸せについて考えさせられる本です。この本を読んで私にとっての幸せは自己決定と自己肯定であり、他人に選んでもらった選択肢ではなく、自分で選んだ選択肢。自分が自分の事を認めてあげられるような自分になることが大切だと感じました。人生で一番長く付き合っていくのは自分自身だから自分のことは自分で満たす、そういう人生を送りたいです。
氏名	*****		
書名	また、同じ夢を見ていた		
作者名	住野よる		

学年		科	寸感文
クラス	1年	D	この本は一話ごとの主人公が自分の体の治したい部分と同じ所に触ると回復するという都市伝説をもつアニマルライドのカバヒコを通して成長していく物語だ。私だったら、自分の歩くところをちゃんと自分で決められるように足を触ると思う。二年後の進路選択では、高校受験とはまた違う覚悟が必要になる。自分の歩くところを自分で決められるように、日頃から常に緊張感を持って過ごすことを心がけ、後悔のない進路選択をしたい。
氏名	*****		
書名	リカバリー・カバヒコ		
作者名	青山美智子		

学年		科	寸感文
クラス	1年	D	この本は、現代において生きづらさを感じる人々を肯定してくれる存在だと思いました。「人間失格」は、人間社会に上手くとけこむことの出来ない主人公が、本来の自分を隠しながら生活していくという内容から展開されていきます。まさに現代社会の縮図であると感じました。なんでも完璧にこなす主人公のような存在でも、社会に怯え悩みながら生きている。弱くてもいいんだ、と少し生きる元気をもらえる作品です。
氏名	*****		
書名	人間失格		
作者名	太宰治		

学年		科	寸感文
クラス	1年	A	自分の価値とはなんだろう。私にそれを考えさせたのがこの作品である。ある日、少年は自分だけが存在しない並行世界へ迷い込む。そこには現世では存在しなかったはずの姉。自分の世界と違って全てが上手くいっている姉の世界に少年は絶望していく。その心情がダイナミックに描かれているところがこの作品を魅力的に見せているのだろう。私は、まだ自分の価値を計り知れていない。そのためこれから生きていく上で知っていきたい。
氏名	*****		
書名	ボトルネック		
作者名	米澤穂信		

学年		科	寸感文
クラス	1年	A	この本のタイトルから分かるように、ユーモアのある作品でした。この本は、「一寸法師」「桃太郎」などの有名な作品をモチーフとしており、多くの人が、小さい頃から知っている作品ですが、作者が独特な目線で語っています。また、一つの作品で二回楽しめてお得です。この作品を読んで、あたりまえとしてきたことがあたりまえじゃないと気付き、視野が広がり、より面白く感じられると思います。
氏名	*****		
書名	むかしむかしあるところに死体がありました		
作者名	青柳碧人		

学年		科	寸感文
クラス	1年	P	<p>これからの人生で大切なものは何か。僕はこの本を読んで考えてみました。物語を読むと過去の思い出や人間関係が時と共に変化することを感じました。これからの人生でも、環境や人間関係が変化することは避けられないでしょう。僕は自分の信念を持ち続けることが大切だと思いました。どんな変化があっても、自分の価値観を見失わず、人とのつながりを大切にしながら生きていく、変わらぬ心の大切さを僕はこの本から考えました。</p>
氏名	* * * *		
書名	阿Q正伝・故郷		
作者名	魯迅		

学年		科	寸感文
クラス	1年	P	<p>私は、「蜘蛛の糸」を読み、日頃の行いが悪いと、その分だけ痛みや苦しみ、苦労などが返ってくるから日頃の生活を改めたいと思った。また、悪い行いをしてしまったら、自分がやってしまったことを反省し、良い行いをすれば、地獄に蜘蛛の糸が垂れ下がってくるように、チャンスが巡ってくると思うのでごみ拾いをするなどの徳を積むことができるような行動をとり、自分の人生を豊かで悔いのない幸せな人生にしていきたいと思う。</p>
氏名	* * * *		
書名	蜘蛛の糸		
作者名	芥川龍之介		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Ma	<p>この作品の世界は、現実より未来にあるかもしれない、一つの世界についての物語です。この世界では流行りの物、価値観、法律、常識までもが今とは大きく違い、「気味が悪い」「異常だ」と読み進めるにつれ思いました。しかし、これは今後起こるかもしれない未来でもあり、このように思っているのは、常識や価値観が凝り固まり、物事を視点を換え、多角的に見ることが出来ず、一面しか見れていないからなのかもしれません。</p>
氏名	* * * *		
書名	殺人出産		
作者名	村田沙那香		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Ma	<p>この本は主人公の幼馴染がトランスジェンダーということ告白するところから始まります。学校生活をおくる中で幼馴染を受け入れられない人たちと対立して、主人公がどうにかしようと奮闘する物語です。 僕はこの本を読んで社会には色々な悩みを抱える人がいることを学びました。なので僕は社会に出たときに色々な人を受け入れて生活していきたいと思いました。</p>
氏名	* * * *		
書名	ミモザの告白1~2		
作者名	八目迷		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Mb	<p>この本を読んで「自分を知る」ことがとても大切であることがわかった。自分の未来を、考える上で自分を知ることに時間を使い、自分に興味をもてるものを見つける必要があるとわかった。自分が好きなことは音楽だが、音楽だけで飯を食べていくのは難しいだろう。だからこれから音楽にかかわる職を見つけるか音楽はもう趣味だとわりきり、別の興味を持てるものを早めに見つけて、それに向かって頑張る必要があると思った。</p>
氏名	* * * *		
書名	15歳からの人生戦略		
作者名	山脇秀樹		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Mb	<p>「あと少し、もう少し」は、駅伝を通じて仲間との絆や成長を描いた作品です。個性豊かなメンバーが互いに励まし合いながら目標に向かって全力を尽くす姿が感動的です。それぞれが抱える悩みや弱さを克服し、走ることで自分を見つめ直していく過程が丁寧に描かれています。特に、チームとしての一体感や最後まで諦めない精神が心に響きました。読後には、努力の大切さと仲間の支えのありがたさを深く感じられる作品でした。</p>
氏名	* * * *		
書名	あと少し、もう少し		
作者名	瀬尾まいこ		

学年		科	寸感文
クラス	1年	E	<p>あなたは平和について考えたことがあるだろうか。これは様々なものを失い人が人を信じられなくなる、そんな戦争の悲惨な現実を書いた実話である。当時太平洋戦争の戦場はひどいもので、食料不足により兵士達は病気になってあたり前という状況であった。仲間どうしの争いも起こり、常に明日の命の保証がなかったが、今現代はどうだろうか。私はこの本を読んで明日も自分や周りの人が漠然と生きていると思うことに疑問を感じた。</p>
氏名	* * * *		
書名	あの世からの贈りもの		
作者名	小沢清子		

学年		科	寸感文
クラス	1年	E	<p>一度は聞いたことのある、知っている馴染みの昔話、そんな昔話の世界で殺人事件が起こってしまう本格ミステリー小説で、様々な昔話を題材にした物語が複数入っている一冊です。昔話の登場人物の間で起こる事件には、考えもしなかったあの登場人物の視点で語られたり、昔話の裏側の話だったり、今まで知らなかった、考えもしなかったところに謎があるため、小説が得意でない人でも楽しめると感じる一冊です。</p>
氏名	* * * *		
書名	むかしむかしあるところに死体がありました。		
作者名	青柳碧人		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Ei	<p>この本の冒頭に「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と記されている。彼は「学問」を通して「平等な時代」の到来を思い描いていた。現代においてもまだ差別は無くなっていない。更に差別することを「無意識」に行われていることも問題だ。今を生きる私たちは福沢諭吉の学問のすすめのような「生きた学問」が求められるのである。この本は「平等な世界」へと変えていくための助けとなるかもしれない。</p>
氏名	* * * *		
書名	学問のすすめ		
作者名	福沢諭吉		

学年		科	寸感文
クラス	1年	Ei	<p>クラスの人気者である香織の専属カメラマンに任命された輝彦。撮影を続けていく中でお互いのことを知っていった。しかし、彼女は笑顔の裏で病気と闘っていた。この物語で香織と輝彦が一緒に居ることができたのは、2か月だけ。この場合一緒に居れる期間が決まっている。しかし、現実ではいつまで居れるかは決まっていない。そのため、大切な人と過ごしている時間を全力で楽しんだり、後悔しない行動をしたいと改めて感じた。</p>
氏名	* * * *		
書名	一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。		
作者名	冬野夜空		

学年		科	寸感文
クラス	1年	R	<p>この小説は、デジタル技術が進化した未来が舞台で、元宇宙飛行士の主人公とその妻が息子の死や数々のトラブルを乗り越え、自分の存在意義やアイデンティティを模索する物語だ。技術と人間の間で揺れる心の葛藤をリアルに描き出しているこの本は、内容は少し難しいものの、散りばめられた伏線が終盤で一気に回収されていく様は、読む者をこの本の持つリアルで生々しいながらも美しい世界観にのめり込ませるだろう。</p>
氏名	* * * *		
書名	ドーン		
作者名	平野啓一郎		

学年		科	寸感文
クラス	1年	R	<p>まわりの目を気にしすぎてしまうことはないだろうか。この話は鼻が顎の下まである僧の話である。僧は心ない事を言われ、鼻がコンプレックスだったが、弟子のおかげで鼻を短くすることに成功した。しかし以前よりも笑われるようになってしまった。この話から私はまわりを気にしすぎると帰って悪化するから、そのままが良いと伝えたかったのではと思った。自分を見失わず、意志をもつことの大切さを学び、素を愛したいと思った。</p>
氏名	* * * *		
書名	鼻		
作者名	芥川龍之介		

学年		科	寸感文
クラス	2年	C	<p>善である人殺しは存在するのだろうか。 この本は、弟の自殺を手助けした兄が殺人罪として罪にとわれてしまった話である。 私は、人を殺すことは罪であると思う。しかし、苦しみや辛さを抱えている人を解放するための殺しならば罪ではなく、むしろ人を救ったといえるのではないかと思った。悪と善の殺しに対する罰の在り方、そして現代社会の「安楽死」の在り方を深く考えさせられる本だった。</p>
氏名	****		
書名	高瀬舟		
作者名	森鷗外		

学年		科	寸感文
クラス	2年	C	<p>私はこの本を読んで、「大切なものは失ってから気づく」ということを改めて感じた。 この本は余命わずかの主人公が悪魔との取引で寿命を一日延ばす代わりに世界から何かを消していく物語だ。私がもし世界から消すなら何だろうと考えてみたが、その時浮かんだものも実際に消えたら後悔するかもしれない。だから、今身の回りにある当たり前を失ったときに後悔しないよう、大切にしていこうと思った。</p>
氏名	****		
書名	世界から猫が消えたなら		
作者名	川村元気		

学年		科	寸感文
クラス	2年	D	<p>この本は手放された人のいない病院に十二人が集まって集団で安楽死するはずが、既に亡くなった状態の十三人目が現れるところから始まります。 子ども同士で話し合ううちにお互いの苦しみを分かち合ったり和らげ合っていく様子がとても切なく描写されていて、心が締めつけられました。全員にそれぞれの生きづらさがあって、子供がどれほど周りに影響されやすいのを感じられてとても良かったです。</p>
氏名	****		
書名	十二人の死にたい子どもたち		
作者名	冲方丁		

学年		科	寸感文
クラス	2年	D	<p>この本はある殺人事件を通して人々の本心SNSなどの影響力の大きさなどをリアルに書いている物語です。事実とは異なる情報が拡散されていき、真実とどんどん離れていく様子を見て、SNSや噂は改めて怖いものだと思います。 SNSは便利なものだけど気付かない内に人を傷つけていたり大事になっていたりします。そういうことにならないよう、一つの情報に流されないことが大切だと思います</p>
氏名	****		
書名	白ゆき姫殺人事件		
作者名	湊かなえ		

学年		科	寸感文
クラス	2年	A	<p>自分が信じた道を行く主人公の成瀬と友人の島崎があらゆる事に挑戦していく話。成瀬が周りの目を気にせずに一切の妥協を許さず真摯に取り組む姿は、読み手にとても勇気を与えてくれる。それと同時にこの物語は、何かを始めたいと思う時の気持ちのハードルを下げてくれると思った。何かを始めるタイミングは突然でいいし、やめる時も人の目を気にしなくていいというメッセージが込められていると感じた。</p>
氏名	****		
書名	成瀬は天下を取りに行く		
作者名	宮島未奈		

学年		科	寸感文
クラス	2年	A	<p>この本は、孤独やいじめに悩む中学生たちが、鏡を通じて異世界の城に集まり、自分たちの心の傷や悩みを共有し、友情を築く物語です。私は、この本を読んで、彼らがお互いに困難を乗り越えていく姿にすごく感動したし、共通の悩みを持っているからこそ分かり合えるものもあり、友情の大切さを知ることができました。また、ありのままの自分を受け入れる勇気を与えてくれる作品だと思います。</p>
氏名	****		
書名	かがみの孤城		
作者名	辻村深月		

学年		科	寸感文
クラス	2年	P	<p>人生がうまくいかず、なにをやってもイライラしてしまう中学2年生の百合。家出をし外で寝て目が覚めるとそこは七十年前、戦時中の日本だった。そこで特攻隊員である彰に出会い、彼と過ごす日々の中で百合は彰に惹かれていく。ただ彰は特攻隊員である以上、命を懸けて戦地に飛び立つ運命である。そして最後百合は彰の本当の気持ちを知ることになる。圧巻のラストは涙なくして読むことはできない。</p>
氏名	* * * *		
書名	あの花が咲く丘で君とまた出会えたら		
作者名	汐見夏衛		

学年		科	寸感文
クラス	2年	P	<p>この物語は性格が正反対な剣道部に所属する二人が互いにぶつかり合いながら成長していく話だ。ぶつかるといのは、剣道への価値観や考え方であり、自分も十年近く剣道をしていて共感できる部分や逆に異なる考えをもつ所もあった。物語の二人は、自分の考え方を持ち相手に真正面からぶつかっていきけるそれ程に自分の中で強い芯を持っているのだと感じた。これを踏まえて部活動が自分達の代となった今、自分の芯を確かめたい。</p>
氏名	* * * *		
書名	武士道シックスティーン		
作者名	菅田哲也		

学年		科	寸感文
クラス	2年	Ma	<p>『いじめは犯罪でないという幻想』という言葉を見て僕はここにいじめの原因があると本を読んで思った。いじめのかなりの部分は学校の外で行われれば犯罪なのに学校の中で行われれば罪に問われないという間違った考え方がいじめを引き起こしていると感じた。またいじめの構造を孤立化、無力化、透明化と分けて書かれていたのがとてもわかりやすかった。いじめの被害者を孤立させないという事は勇気のいる事だけど大切な事だと感じた。</p>
氏名	* * * *		
書名	いじめのある世界に生きる君たちへ		
作者名	中井久夫		

学年		科	寸感文
クラス	2年	Ma	<p>誰もが一度は聞いた事があるタイトルを持つ最高峰のミステリー小説。連絡手段も脱出手段もない兵隊島に招き入れられた十人の男女が童謡の通りに殺されていくサスペンス最高傑作。と、本の裏に書いてある。率直に感想を言うと、最高だった。個人的にこの作品ですごいと思うのが最後まで謎が解けずに本編が終了することだと思う。汚れた人間の様子や考えが書かれているのに全員怪しいという不思議な気分になった。</p>
氏名	* * * *		
書名	そして誰もいなくなった		
作者名	アガサ・クリスティ		

学年		科	寸感文
クラス	2年	Mb	<p>自分の命を一日伸ばすために、世界から何かを一つ消すと言う物語です。僕はこの本を読み、命と言うものがいかに有限なのか、この世界から消えるものがどんな影響を及ぼすのか考えさせられました。本では、時計、映画、電話などが消され、電話の代わりに手紙を使うしかなく、今までの当たり前が当たり前じゃなくもの一つを消す事で、どれだけの影響が出てしまうのかを考えさせられ、当たり前という事について考えようと思いました。</p>
氏名	* * * *		
書名	世界から猫が消えたなら		
作者名	川村元気		

学年		科	寸感文
クラス	2年	Mb	<p>『王への手紙』はティウリの成長と勇気を描いた物語で、強く心に響きました。彼が王への手紙を届けるために、困難を乗り越え、自分の信念を貫く姿は非常に印象的です。物語を通して、友情や責任感、そして正義感の大切さを改めて考えさせられました。この本は若者だけでなく、全ての世代に対して、自分の信念を持ち続けることの重要性を教えてくれる素晴らしい作品です。ティウリの姿から多くのことを学べる良い作品でした。</p>
氏名	* * * *		
書名	王への手紙		
作者名	トンケ・ドラフト		

学年 科			寸感文
クラス	2年	E	死というものを考えたことはあるだろうか。多かれ少なかれ誰しも考えたことはあるだろうが、死を目前としたとき何を考えるかは誰にもわからない。この本では、若くして死を目前にした少女の生き様が描かれている。死を目前にしても、全力で楽しむ姿や、人との繋がりを通してまだ生きたいと切に願う姿が痛々しく、今ある時の儚さや、人の生の輝きを感じることができる。そして、いつ終わるかわからない人生を全力で生きようと思えた。
氏名	****		
書名	一瞬を生きる君を僕は永遠に忘れない		
作者名	冬野夜空		

学年 科			寸感文
クラス	2年	E	この本を読んで、僕は戦争について深く考えさせられました。この小説に出てくる特攻隊員の人たちには、大切な家族や友人がいる中で、死を覚悟して戦争に参加する姿は、複雑であり、強く見えました。今の自分たちには、戦争は無駄だと思えますが、当時の人は日本のために強い使命感があったことを思うと、とても複雑な気持ちになります。僕は、今こうして不自由なく生きていられるありがたさを、絶対に忘れてはいけなかったと思います。
氏名	****		
書名	永遠の0		
作者名	百田尚樹		

学年 科			寸感文
クラス	2年	Ei	この本は、息子を無くした女性が知らない家庭の赤ちゃんを「これは私の子だ。」と言い、誘拐して家にたてこもるという話です。僕はこの本を読んで、身近な人を大切にする事の重要性を学びました。この女性の息子は夜遊びが原因で亡くなってしまいましたが、母親はその事を知らなかったことで頭がおかしくなってしまったのです。もっと家族のことを気にかけていたら…という後悔は人を狂わせます。僕はその事を生かして家族を大切にしたいです。
氏名	****		
書名	あの日、君は何をした		
作者名	まさきとしか		

学年 科			寸感文
クラス	2年	Ei	この小説は、人に興味を持たない主人公と臍臓の病気により余命がいくばくもないクラスメイトである山内桜良との交流を描いた物語です。主人公の心情が、彼女との交流を通して変化していく様子や、命の尊さや儚さが感じられる点が魅力的な作品だと思います。今生きていることが重要なのだと思わせてくれるような感動的な物語なので読んでみてほしいと思います。
氏名	****		
書名	君の臍臓をたべたい		
作者名	住野よる		

学年 科			寸感文
クラス	2年	R	この作品は、人間の弱さや自尊心の危うさについて描いた作品だと感じた。李徴という男が自らの才能の過剰な自負と、それを裏切るような現実によって、ついには虎になってしまう。この作品を通して、人間の弱さを知ると同時に、自らの内面とどう向き合うかを考えさせられた。また、彼が虎になった悲劇は読書への深い警告でもあり、人間の本質に迫る問いでもあると感じた。
氏名	****		
書名	山月記		
作者名	中島敦		

学年 科			寸感文
クラス	2年	R	「N」という本を読みました。この本は全6章で読む順番は自由なため、720通りの読み方があります。読み方次第で、時間軸が前後するため、読み返さないと理解できない部分も多くありました。しかし、この本のすごいと思ったところは、どの順で読むかによって、誰を主人公として捉えるのかも変わりとても面白く感じました。これからも別の読み方で読んでいき、物語の感じ方を楽しんでいきたいです。
氏名	****		
書名	N		
作者名	道尾秀介		

学年		科	寸感文
クラス	3年	C	<p>何事も上手くいくわけじゃない。学校生活に息苦しさを感じている女子中学生の憂鬱とかすかな希望を描き出す六つの物語が、現役の中高生たち、それから輝かしい青春を送って来なかった大人たちの心に寄り添います。</p> <p>派手な子も地味な子も、みんな不安な気持ちは持っています。あなたが自信をなくして悩んでいるのなら、あなたの絶望が救われるために、この短編集を読んでみてください。私は一人きりじゃないと思わせてくれます。</p>
氏名	*****		
書名	雨の降る日は学校に行かない		
作者名	相沢沙呼		

学年		科	寸感文
クラス	3年	C	<p>時計、スマホ、映画、猫。日常にあたりまえにあるものでも、誰かにとってはかけがえのない大切なものかもしれない。自分の命と引き換えに何か一つこの世界から消すこと。失ってから気づく大切な物とはこういうことなんだと思った。愛するものが消えるくらいなら、と自らの死を受け入れた僕の決断から私は改めて命の尊さを感じた。自分を大切にするのはもちろん、周りの大切な人や大切な物に感謝しながら、もっとずっと大切にしたい。</p>
氏名	*****		
書名	世界から猫が消えたなら		
作者名	川村元気		

学年		科	寸感文
クラス	3年	D	<p>自分一人だけが助かりたい。そう思うのは果たして悪いことなのか。私はこの作品を読んで死後の世界への好奇心を感じました。私は死後、極楽と地獄どちらに区分されるのか、しかし極楽へ行ける人間はいないと思います。お釈迦様ですら完璧な善でないのですから、私は死後について悩むくらいなら数年後の社会について悩む方が有意義であると考えます。芥川龍之介は人が嫌いだったのでしょか。私とは気が合わないと感じました。</p>
氏名	*****		
書名	蜘蛛の糸		
作者名	芥川龍之介		

学年		科	寸感文
クラス	3年	D	<p>伊岡瞬のこの作品は実に奇妙である。サトウミサキという悪女により日常を狂わされ本当の顔が次々と暴かれる人々。それは怖くてしかし、なぜか爽快だ。登場人物のクズっぷりは自分の本性をも突き付けてくる極限状態に置かれた人間は実に虚しい。ミサキという女はなぜ人々をそこまで追いこむのか。本性を突き付けるのか。その理由を知ったとき、僕はしばらく放心状態になった。綿密な人間ドラマが残す深い余韻はへどろのようだ。</p>
氏名	*****		
書名	本性		
作者名	伊岡瞬		

学年		科	寸感文
クラス	3年	A	<p>まず数ページ読んで、語り手に驚かされた。物語の初めに、無邪気に、悪意なく殺されてしまった「私」の死体目線で物語が進んでいくという、今までの読んだ本とは全く違う視点の本に新鮮さを覚えながら楽しんだ。「私」の死体を、殺してしまった女子とその兄はどう隠していくのか、何度もバレそうになるハラハラして読んでいて楽しい本だった。初めの「私」が死ぬ描写はリアルで少し目をおおいたくなったが、とても満足感のある本だった。</p>
氏名	*****		
書名	夏の花火と私の死体		
作者名	乙一		

学年		科	寸感文
クラス	3年	A	<p>文字に、文章に、心臓を殴られているような感覚だった。主人公のふたりはただ幸せになりたいだけなのに、それがどれほど難しく、数えきれない犠牲が必要という事を感じた。愛に呪われ、社会に捕らわれ、血縁に縛られた2人の最終的な形は、歪で残酷で儚かった。私は「わたしは愛する男のために人生を誤りたい。」という言葉が凄く印象的だった。本を閉じて、自分の愚かさや自然と増築されいた固定概念を実感できるような本だった。</p>
氏名	*****		
書名	汝、星のごとく		
作者名	凧良ゆう		

学年		科	寸感文
クラス	3年	P	この物語は5人の大学生の日常を書いた作品である。その中で主人公は、社会を「砂漠」に置き換え、そこに踏み出すことに不安を感じている。僕も来年から社会に出て働くことになるが主人公と同じでとても不安を感じている。しかし、作品に出てくる「その気になれば砂漠に雪を降らすことだってできる」というセリフは厳しい砂漠の中でも進み続ける勇気と自信をもらった。
氏名	* * * *		
書名	砂漠		
作者名	伊坂幸太郎		

学年		科	寸感文
クラス	3年	P	この本は余命宣告されて生きる意味を失くしていた少年が少年より短い余命の少女と出会うことで少年の考え方や行動が変わっていく話だ。必ず終わりが来る人生でどれだけ自分の選択肢を狭めずに後悔しない生き方ができるのかが大切だと思った。限られた時間の中で辛苦の方が多いが、自分のやりたいことや伝えたいことは実行すべきだと学んだ。自分の人生は自分で歩み続けることが大切である。明日死ぬとしたらあなたは何をやる？
氏名	* * * *		
書名	余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話		
作者名	森田碧		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ma	この作品を読んで印象に残った言葉があります。「一人では見えない景色も、誰かと一緒なら見える」という言葉です。この言葉から誰かとともに歩むことの大切さをあたためて考えさせられました。その言葉がタイトルを示していると思いました。今後、困難なことがあったとしても、誰かと共に歩み、乗り越えていきたいと思います。この本は、人間関係の重要さと、共に歩むことの価値を改めて考えさせられる一冊でした。
氏名	* * * *		
書名	with you		
作者名	濱野京子		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ma	楽な仕事とはなんのでしょうか。私はこの本を読んでそう疑問が残りました。この本は主人公が大学を出て医療関係の仕事をしていましたがストレスを理由に辞職。そこから契約社員として職を転々とする話です。話の中で豆知識を書く職につくのですが、その仕事に成功すると逆に期待が高くなり喜びよりも辛さを感じるようになったのです。このことから、どんな仕事においても期待と責任が存在し、それを乗り越える勇気が大切だと感じました。
氏名	* * * *		
書名	この世にたやすい仕事はない		
作者名	津村記久子		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Mb	あなたは、この家の異常さが分かるだろうか。この一節から、本書で語られる恐ろしくかつ奇妙な事件は幕を開ける。フリーライターである主人公が手にした間取り図から、物語は大きく展開していく。本書の見所は、主人公と友人の栗原が協力して謎を解く場面である。謎と謎が次々とつながっていく様子は、読む中で非常にぞくぞくとした。又、物語も非常にリアリティが高く書かれており、日常に潜む恐怖がとても上手く表現されていた。
氏名	* * * *		
書名	変な家		
作者名	雨穴		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Mb	皆さんは日頃「めんどくさい」と感じたことはありませんか？私も昔はいろいろなことをめんどくさいと感じていましたが、そんなときに出会ったのがこの本でした。この本には、なぜめんどくさいが起こるのかや、めんどくさいを無くす十の工夫など、いろいろなめんどくさいに関することが紹介されています。私はこの本を読み、日常のめんどくさいが少なくなりました。ぜひ皆さんも読んでみてください。
氏名	* * * *		
書名	めんどくさいが無くなる本		
作者名	鶴田豊和		

学年		科	寸感文
クラス	3年	E	頭のいい人と聞くと私は、勉強ができる人だと思っていた。しかし、この本を読むと本当の頭のよさとは「現実社会のなかで、どう適応していくか」であると分かった。私は、これから就職し社会に出ていく時、求められる人材は筆者のいう頭のよさを持つ人ではないかと考えた。そのため、これからは新しいものを生み出す発想力や優れたコミュニケーション力をもてるようにして、筆者のいう本当に頭のよい人になろうと思った。
氏名	* * * *		
書名	本当の「頭のよさ」ってなんだろう？		
作者名	斉藤孝		

学年		科	寸感文
クラス	3年	E	この小説は、主人公の島村が東京で病気を患う妻の治療費を稼ぐために、かつての幼馴染みである駒子という芸者のもとを訪れ、そこで駒子に思いを寄せてしまう、少し哀しい物語です。駒子とは結ばれないと知りながら限られた時間を大事にする島村と一途に島村を思う駒子の心情がぶつかり合うところを、雪国特有の景色で描いたシーンが印象的でした。文章表現が細く、とても魅力的な作品です。
氏名	* * * *		
書名	雪国		
作者名	川端康成		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ei	これは仕事、財産、健康など、人々が人生で求めるものをチーズにたとえ、ネズミと小人がチーズを追い求める話である。チーズが無くなったときのため、チーズに起こる変化を常に観察し、対策しないといけないが、最初から無くならないだろうと考えていると、無くなった際の対応の仕方がわからず、生活に支障が出るかもしれないと思った。私は今後社会に出て手に入れるチーズが増えると思うが、それに柔軟に対応していきたいと思う。
氏名	* * * *		
書名	チーズはどこへ消えた？		
作者名	スペンサー・ジョンソン		

学年		科	寸感文
クラス	3年	Ei	「読者全員が犯人」 これはこの本のキャッチコピーである。意味が分からないかもしれないが、そのままの意味である。この本を最後まで読んだ人は犯人になってしまう、読者参加型ミステリーなのだ。察しの良い人は気づいているかもしれないが、この本を紹介している私も、もれなく犯人の一人である。それなのになぜ私は捕まっておらず、これを書いているのか、ぜひ自分で読んで確かめてほしい。この本のラストにあなたはきっと…
氏名	* * * *		
書名	最後のトリック		
作者名	深水黎一郎		

学年		科	寸感文
クラス	3年	R	「なぜ地下鉄サリン事件を警察は防ぐことができなかったのか」と、批判する人がいる。オウム真理教の拠点の周囲の人々は異変を感じ、警察に捜査するように願い出たが、彼らは動かなかったという表面的な事実で判断をしていたのかもしれない。私たちの見えないところでわが国の政府、警察、自衛隊は、あるいは秘められた特殊部隊は、壮絶な戦いを繰り広げており、事件の本質を理解する重要な手掛かりだと感じた。
氏名	* * * *		
書名	極秘捜査		
作者名	麻生幾		

学年		科	寸感文
クラス	3年	R	皆さんは旅行をしたことはありますか。この作品は、失踪した友人をめぐり、十年ぶりに再会した主人公達五人が旅先で起きた出来事を語っていく、という話です。それぞれが語る話はどこか奇妙で、不気味な話ばかりです。全ての話に共通する謎の銅版画「夜行」の正体は何なのか。突如起こった友人の失踪の真相とは。読む程に引き込まれる、とても素敵な怪談話となっています。ぜひ一度読んでみてください。
氏名	* * * *		
書名	夜行		
作者名	森見登美彦		